

2026 年 10 月 22 日

株式会社ダスキン

## 2025 年末の大掃除実施率は 50.5% 長年の調査からうかがえる「大掃除意識の変化」 『ダスキン 2025 年末大掃除に関する意識・実態調査』

株式会社ダスキン（本社：大阪府吹田市、社長：大久保 裕行）は、全国の 20 歳以上の男女計 4,160 人を対象に、2025 年末の大掃除の実態をインターネット調査しました。大掃除実施率は調査開始から過去最低となる 50.5%となりました。また、「新年を迎えるため」よりも「普段できない場所を掃除するため」が重視される傾向がみられ、大掃除意識の変化がうかがえる結果となりました。この調査は 2005 年（2004 年末の大掃除が対象）から開始し、毎年実施しております。

### 【調査ハイライト】

#### ▶大掃除実施率は 50.5%。調査開始以来最低を更新

- ・2025 年末の大掃除実施率は 50.5%。2009 年末以降、緩やかに減少して過去最低の実施率に
- ・子育て世帯<sup>※1</sup>・共働き世帯の実施率が高い結果に。一方でシニア世帯<sup>※2</sup>は実施率が半数を下回る結果に

#### ▶「新年を迎えるため」よりも「普段できない場所を掃除するため」が重視される傾向に

- ・大掃除意識には変化がみられ、「新年を迎えるため」から「普段できない場所を掃除するため」へ
- ・大掃除実施率の減少とあわせてみると、年末の恒例行事としての位置づけが変化していることがうかがえる

#### ▶“大掃除ならではの”役割

- ・大掃除の時に最も精力的に掃除した場所は「キッチン（レンジフード・換気扇は除く）」、「レンジフード・換気扇」、「窓・網戸」。また、大掃除の時だけ掃除する場所は「窓・網戸」「レンジフード・換気扇」
- ・日常の掃除では手が回りにくい場所が“大掃除ならではの”の対象に

#### ▶掃除が難しい場所ほど、プロへの依頼意向が高い

- ・プロに依頼したい場所は「エアコン」が最多。「レンジフード・換気扇」「浴室」も依頼意向が高い結果に
- ・プロへの依頼率が高い場所には、自分での掃除が負担になりやすい場所が多くみられる

※1 子育て世帯…高校 3 年生以下の子どもと同居している世帯 ※2 シニア世帯…60 歳以上の世帯

### 【調査概要】

- 調査目的 : 2025 年末の大掃除についての意識・実態把握
- 調査対象 : 20 歳以上の男女
- 調査地域 : 全国（エリア区分：北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州）
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 2026 年 1 月 30 日(金)～2026 年 2 月 1 日(日)
- サンプル数 : 4,160 サンプル

※全データに対して n 数 30 未満のものは参考値として記載しています  
※数値において、小数点第 2 位以下は四捨五入しております  
※本資料内グラフの単位はすべて「%」となります

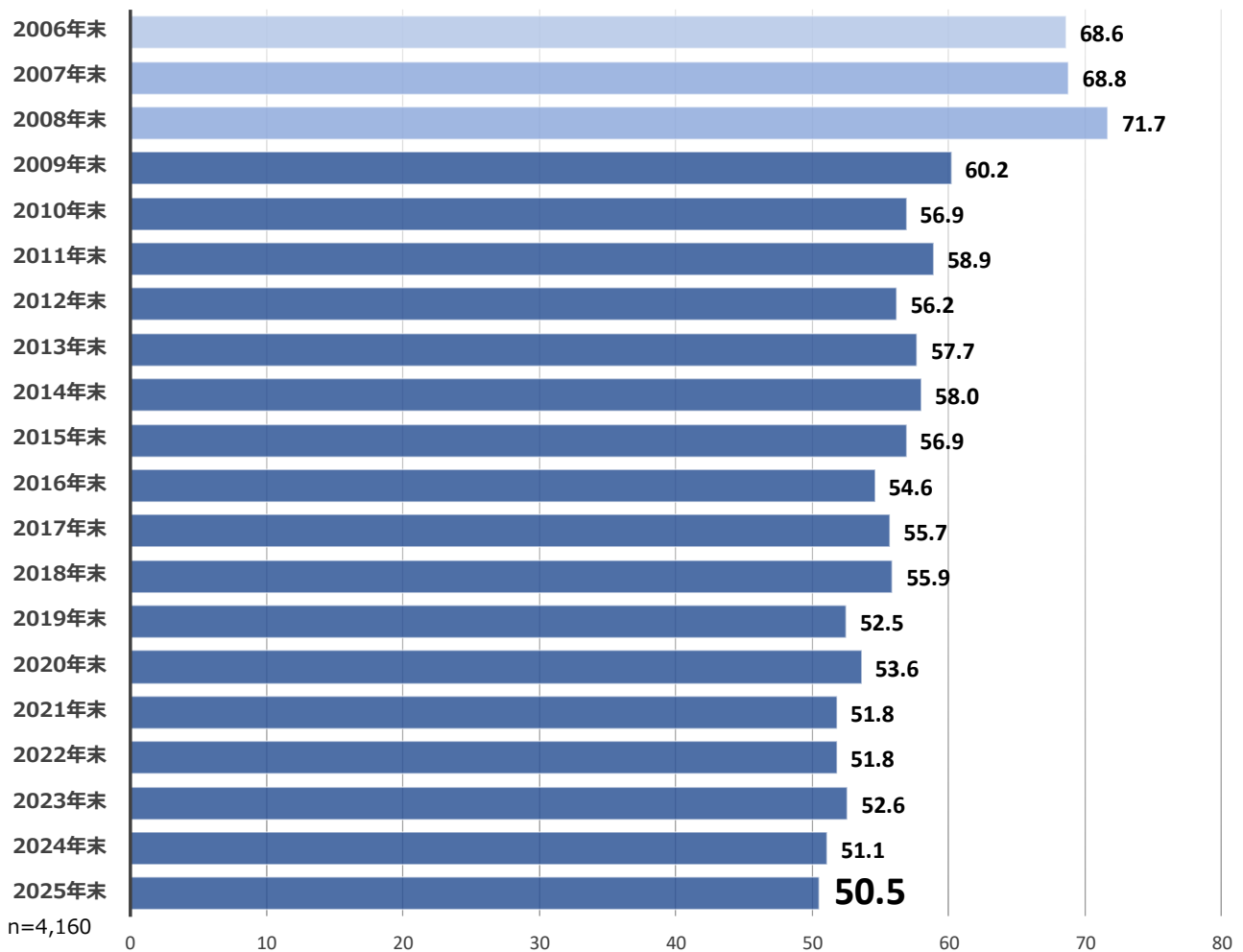
## 大掃除実施率は 50.5%。調査開始以来最低を更新

- ・2025 年末の大掃除実施率は 50.5%。2009 年末以降、緩やかに減少して過去最低の実施率に
- ・子育て世帯・共働き世帯の実施率が高い結果に。一方でシニア世帯は実施率が半数を下回る結果に

### ・2025 年末の大掃除実施率は 50.5%。2009 年末以降、緩やかに減少して過去最低の実施率に

2025 年末の大掃除実施率は 50.5%で前年（2024 年末：51.1%）より微減となりました。2009 年末の大掃除実施率 60.2%以降、実施率の緩やかな減少が続いており、今回の調査でも過去最低を更新しました（図 1）。

＜大掃除実施率 経年変化＞（図 1）

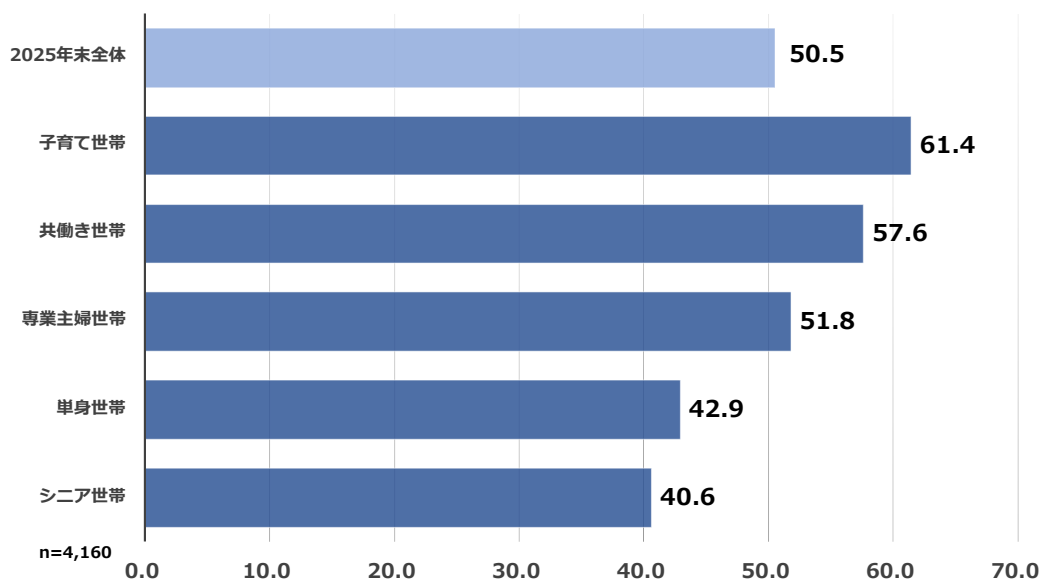


※2008 年末以前は、調査方法が異なるため参考値となります  
※グラフは過去 20 年のデータを記載しています

### ・子育て世帯・共働き世帯の実施率が高い結果に。一方でシニア世帯は実施率が半数を下回る結果に

世帯別の結果では、子育て世帯の実施率が 61.4%と最も高く、次いで共働き世帯が続きました。一方で、シニア世帯の実施率は 40.6%と半数を下回る結果となりました。この傾向は前年と同様であり、大掃除実施率には世帯属性による差がみられました（図 2）。

＜大掃除の実施率 2025 年末属性別＞（図 2）



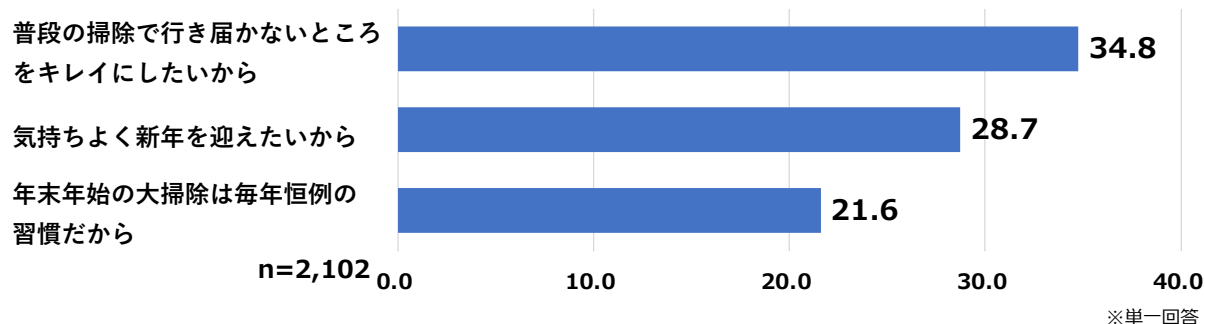
**「新年を迎えるため」よりも「普段できない場所を掃除するため」が重視される傾向に**

- ・大掃除意識には変化がみられ、「新年を迎えるため」から「普段できない場所を掃除するため」へ
- ・大掃除実施率の減少とあわせてみると、年末の恒例行事としての位置づけが変化していることがうかがえる

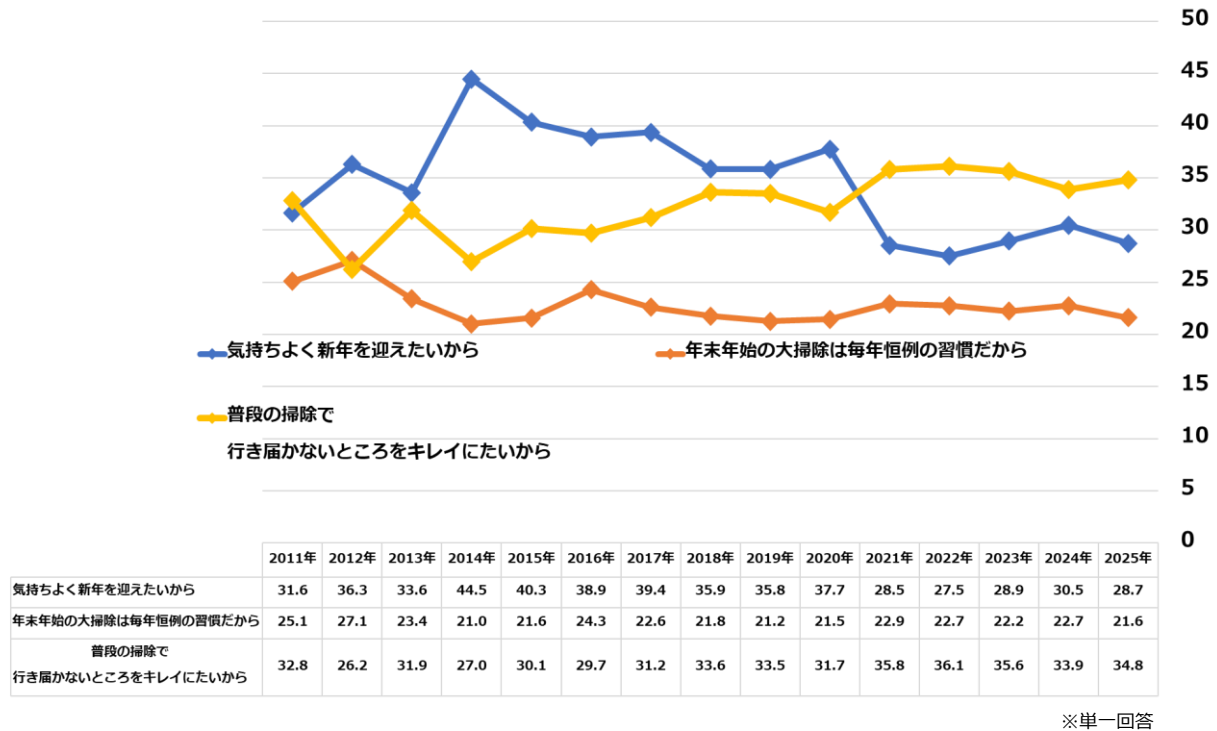
**・大掃除意識には変化がみられ、「新年を迎えるため」から「普段できない場所を掃除するため」へ**

大掃除をする理由、しない理由の経年変化をみると、大掃除に対する意識には変化がみられました。長年にわたり「気持ちよく新年を迎えるため」が上位理由でしたが、2021 年に「普段の掃除で行き届かないところをキレイにしたいから」が「気持ちよく新年を迎えるため」を上回って以降、2 位で推移しています（図 4）。また、「年末年始の大掃除は毎年恒例の習慣だから」は低下傾向を示す一方で、「普段の掃除で行き届かないところをキレイにしたいから」は上昇傾向がみられました（図 4）。2021 年頃はコロナ禍による在宅時間の増加を背景に、住まいや暮らしへの関心が高まった時期であり、その影響も一因として考えられます。大掃除をしなかった理由では「大掃除をする習慣がない」が増加傾向にあり、2025 年末には 26.3%と、「掃除が苦手（嫌い）・面倒」（24.7%）を上回りました（図 5、6）。

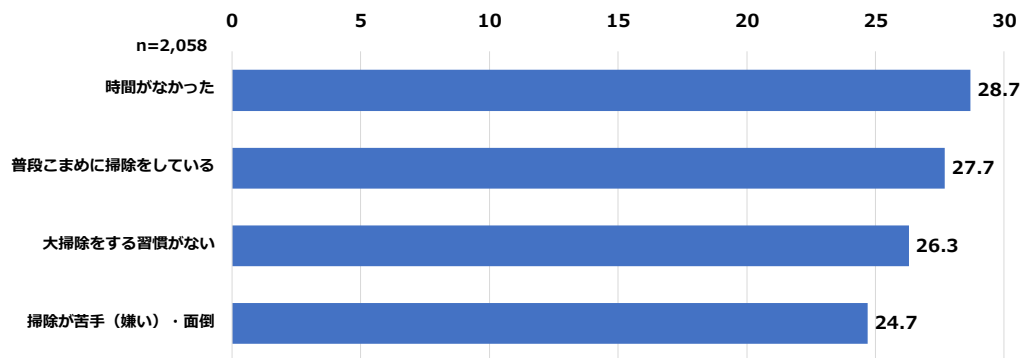
＜2025 年末 大掃除をした理由（抜粋）＞（図 3）



<大掃除の実施理由 経年変化 大掃除をした理由（抜粋）>（図4）

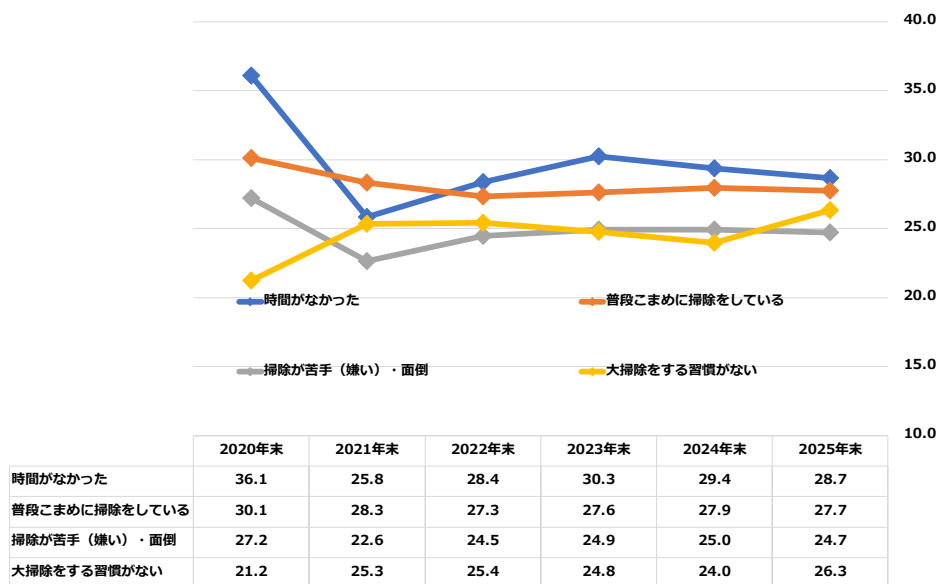


<2025 年末 大掃除をしなかった理由（抜粋）>（図5）



※複数回答

<大掃除の実施理由 経年変化 大掃除をしなかった理由（抜粋）>（図6）



※複数回答

※2020 年末から集計開始

・大掃除実施率の減少とあわせてみると、年末の恒例行事としての位置づけが変化していることがうかがえる

前章で示したように、大掃除実施率は 2025 年末に 50.5%となり、長期的な減少傾向が続いています（図 1）。一方で、大掃除をする理由では「気持ちよく新年を迎えたい」や「年末年始の大掃除は毎年恒例の習慣だから」が低下し、「普段の掃除で行き届かないところをキレイにしたいから」が 1 位となっています（図 4）。これらの結果から、大掃除は年末の恒例行事としての側面を持ちながらも、普段の掃除では行き届きにくい場所をきれいにする機会としての役割がより重視されていることがうかがえます。。

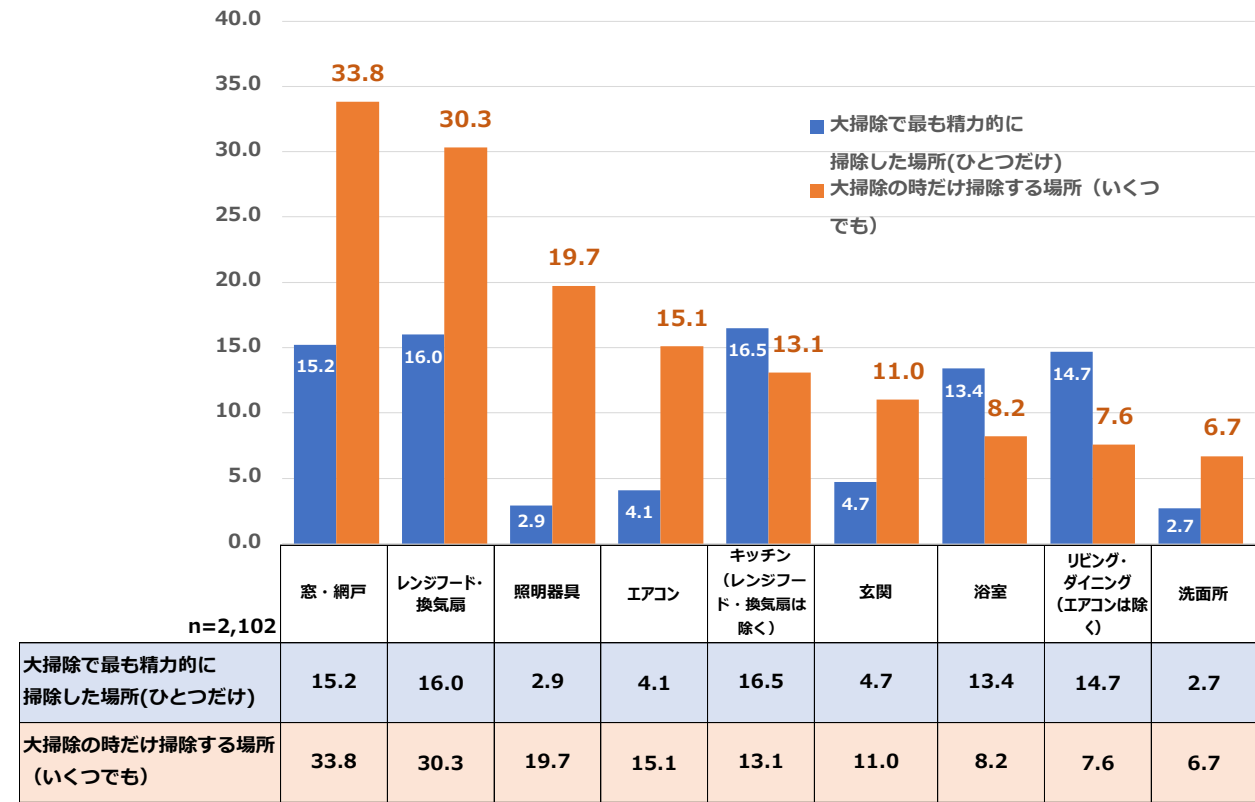
“大掃除ならではの”役割

- ・大掃除の時に最も精力的に掃除した場所は「キッチン（レンジフード・換気扇は除く）」、「レンジフード・換気扇」、「窓・網戸」。また、大掃除の時だけ掃除する場所は「窓・網戸」「レンジフード・換気扇」
- ・日常の掃除では手が回りにくい場所が“大掃除ならではの”の対象に

・大掃除の時に最も精力的に掃除した場所は「キッチン（レンジフード・換気扇は除く）」、「レンジフード・換気扇」、「窓・網戸」。また、大掃除の時だけ掃除する場所は「窓・網戸」「レンジフード・換気扇」

2025 年末の大掃除で最も精力的に掃除した場所は、「キッチン（レンジフード・換気扇は除く）」（16.5%）、「レンジフード・換気扇」（16.0%）、「窓・網戸」（15.2%）が上位となりました。また、大掃除の時だけ掃除する場所では、「窓・網戸」（33.8%）、「レンジフード・換気扇」（30.3%）が上位となりました（図 7）。

<2025 年末 大掃除での掃除場所（抜粋）>（図 7）



### ・日常の掃除では手が回りにくい場所が“大掃除ならではの”の対象に

前章では、「普段できない場所を掃除するため」が重視される傾向がみられ、大掃除に対する意識の変化がうかがえる結果となりました（図3～図6）。また、「大掃除の時だけ掃除する場所」を見ると、「窓・網戸」（33.8%）、「レンジフード・換気扇」（30.3%）が上位となりました。このことから、大掃除は普段の掃除では行き届きにくい場所をきれいにする機会として捉えられていることがうかがえます（図7）。

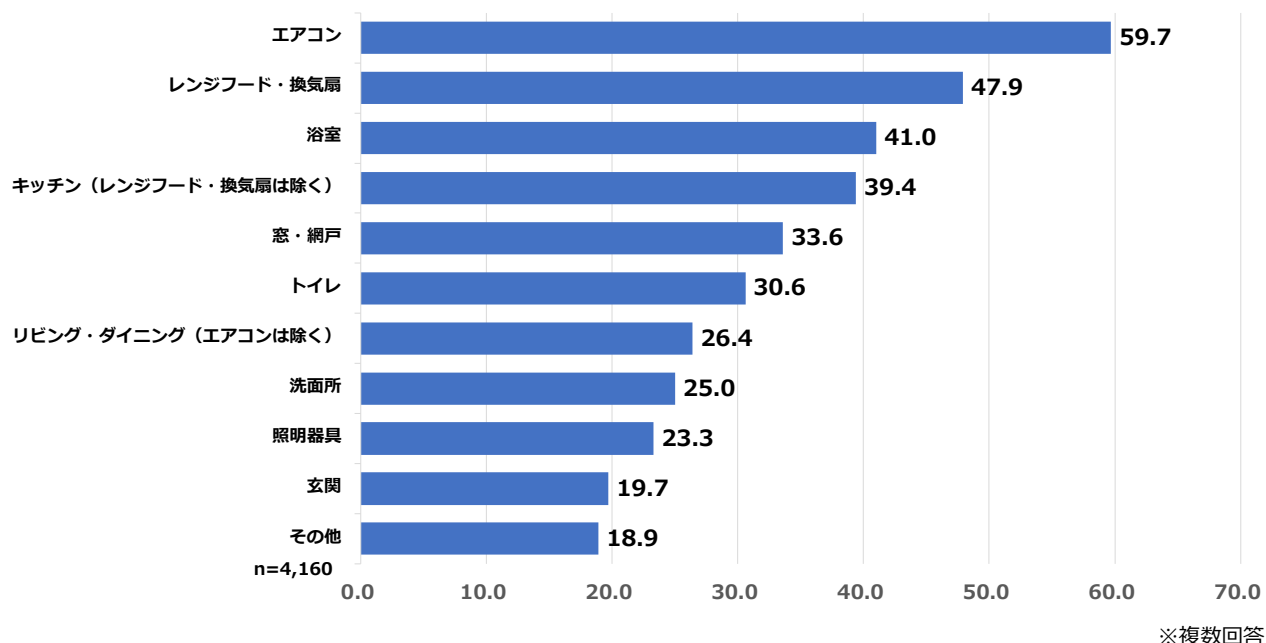
### 掃除が難しい場所ほど、プロへの依頼意向が高い

- ・プロに依頼したい場所は「エアコン」が最多。「レンジフード・換気扇」「浴室」も依頼意向が高い結果に
- ・プロへの依頼率が高い場所には、自分での掃除が負担になりやすい場所が多くみられる

### ・プロに依頼したい場所は「エアコン」が最多。「レンジフード・換気扇」「浴室」も依頼意向が高い結果に

2025 年末の大掃除について、プロに掃除を依頼してみたい場所を聞いたところ、「エアコン」（59.7%）が最も高くなりました。次いで、「レンジフード・換気扇」（47.9%）、「浴室」（41.0%）、「キッチン（レンジフード・換気扇は除く）」（39.4%）が続きました。これらの場所は汚れが蓄積しやすいうえ、分解が必要であったり高所であったりと、自らが十分に掃除することが難しい場所でもあります。「大掃除の際に精力的に掃除した場所」、「大掃除の時だけ掃除する場所」（図7）とも多くの場所が重なり、手間や負担の大きい場所ほどプロへの依頼意向が高い傾向がみられました（図8）。

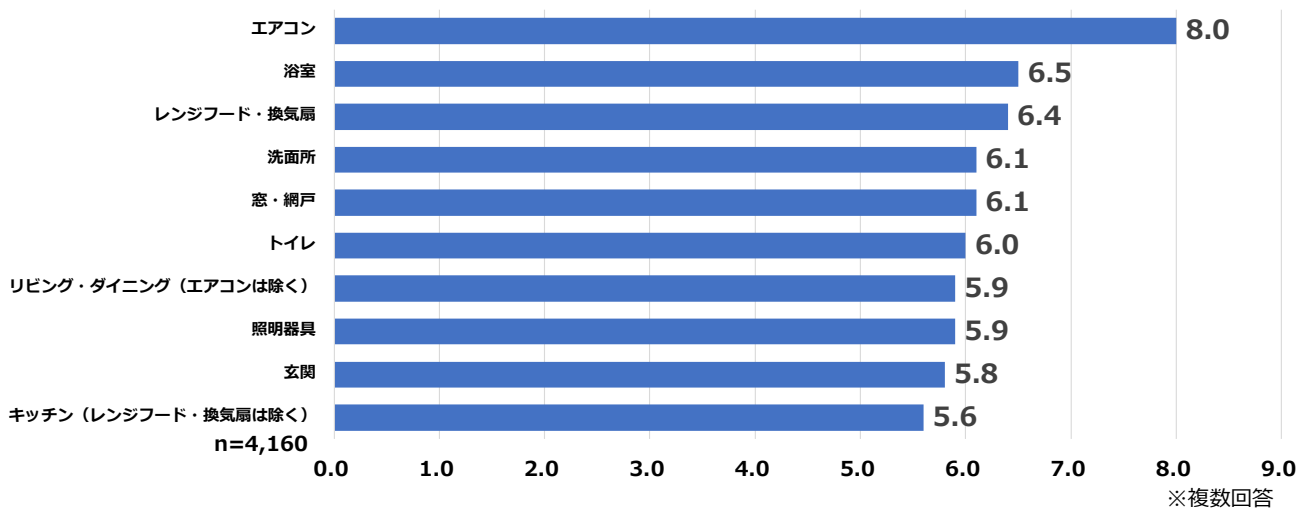
<2025 年末 プロへの依頼意向率（抜粋）>（図8）



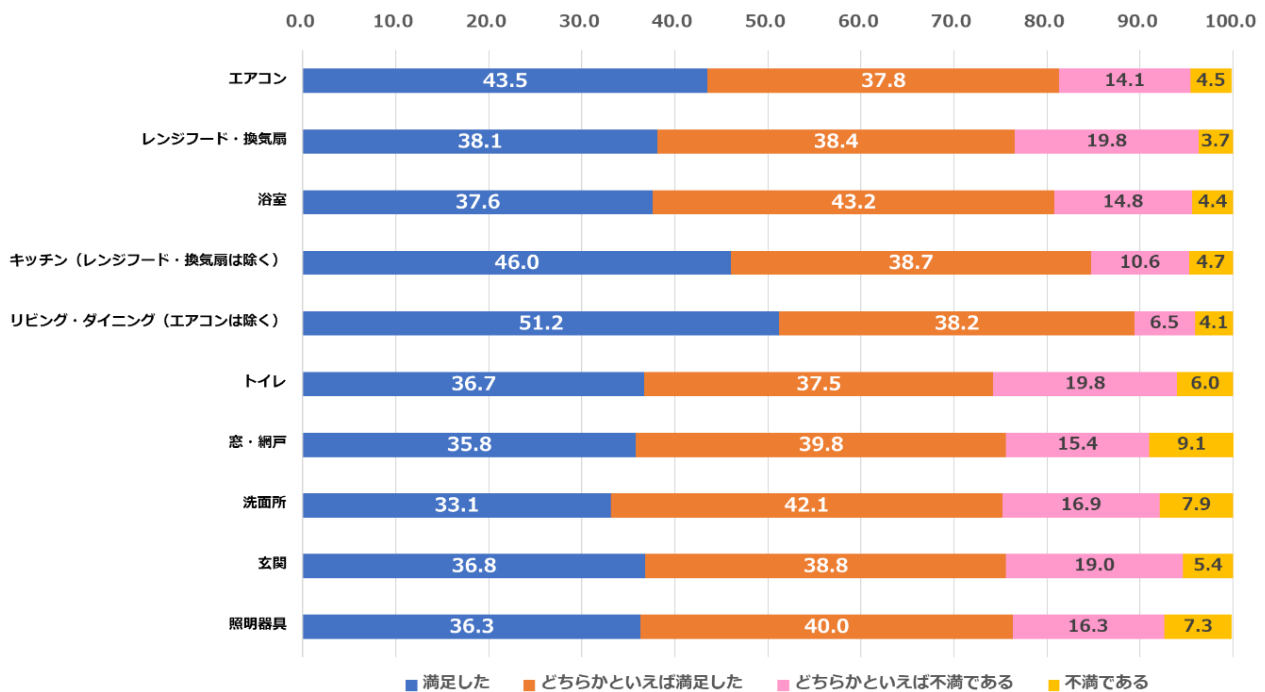
### ・プロへの依頼率が高い場所には、自分での掃除が負担になりやすい場所が多くみられる

実際にプロへ掃除を依頼した場所をみると、「エアコン」（8.0%）が最も高く、「浴室」（6.5%）、「レンジフード・換気扇」（6.4%）が続きました（図9）。また、プロへ依頼した人の仕上がりの満足度（「満足した」「どちらかといえば満足した」の計）は、いずれの場所でも 70%を超え、「リビング・ダイニング（エアコンは除く）」（89.4%）、「キッチン（レンジフード・換気扇は除く）」（84.7%）、「エアコン」（81.4%）などで特に高い結果となりました（図10）。

<2025 年末 プロへの依頼率（抜粋）>（図 9）



<2025 年末 仕上がりの満足度（抜粋）>（図 10）



※単一回答

※小数点 2 位以下を四捨五入しておりますので、合計が 100%にならない場合があります

前章でみたように、大掃除では日常の掃除では行き届きにくい場所が重点的に掃除されています（図 7）。その一方で、プロへの依頼意向が高い場所や実際に依頼された場所の上位には、エアコンやレンジフード・換気扇、浴室など、自分での掃除に手間や負担が伴う場所が並びました（図 8、図 9）。大掃除で気になる場所のなかでも、掃除の難易度が高い場所については、プロのサービス活用が選択肢の一つとなっていることが示されました。